

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月23日

【評価実施概要】

事業所番号	3771600503
法人名	社会福祉法人優真会
事業所名	グループホームかりんの郷
所在地	香川県仲多度郡まんのう町炭所西1521-1 (電話)0877-79-1300

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年9月30日	評価決定日	平成20年10月23日

【情報提供票より】(20年8月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成13年 8月20日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	16人	常勤	10人, 非常勤 6人, 常勤換算 14.0人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り グループⅠ:3階建ての1階部分 グループⅡ:5階建ての4階部分
------	--

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000~30,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	210円	昼食	420円
	夕食	420円	おやつ	50円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(20年9月30日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	6名		
要介護5	4名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.9歳	最低	77歳	最高	95歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	滝宮総合病院 平田歯科 川口医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設は静かな田園地帯で3,900平方メートルの広大な敷地で、3階建ての1階部分と5階建ての4階部分が使われている。理念の「明るく・楽しく・その人らしい」生活が送れるよう、毎日の生活で利用者と職員が共にゆったりと過ごせるよう努めている。また、利用者は自分のペースで不安なく楽しみ、表情は明るい。職員は日常生活で健康・医療・安全面にも気配りがあり、利用者の訪問時には職員は家族の意見、困っていることなどを聞き入れ家族と職員の信頼関係が築かれていて、職員の意気込みがうかがえる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員が一丸となり利用者を中心にしたサポート、介護計画の改善、個別記録の充実など利用者を主体とし、家族との信頼関係を大切にしている。今後、地域に根ざした交流など努力を期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ユニット毎に全職員が自己評価に関心をもち反省と改善をしながら意見を出し合い、その意見によりまとめた。自己評価により職員の意識の高揚にも効果が出て、利用者、家族との信頼の向上につながっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	法人理事、法人評議委員、地域住民代表、家族代表、職員代表、地域包括センター職員で構成している。「かりんの郷便り」を配布報告しながら会議を進めている。また、討議議題として職員の人事、終末期の看取り医療など真剣な内容の会議となることもあり、今後の取り組みが期待される。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見、苦情、不安については家族の面会時や訪問時にはさりげなく会話のなかで聞きだし、職員が一丸となり問題点については話し合い、改善に取り組んでいる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の密着型にふさわしい機能が発揮できるよう、近隣の方、老人会、婦人会、保育所、幼稚園などに働きかけ、行事などには声かけや広報誌(施設便り)を配布し、より一層の地域交流への努力を期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「明るく・楽しく・その人らしく」の理念のもと、職員は「笑顔・挨拶・和」に心がけている。福祉事業に携わる者の認識、適応能力、理性的な心と融和への向上に職員全員の努力がうかがえる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「明るく・楽しく・その人らしく」の理念のもとに、職員は常に口ずさみ日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域密着型を意識し努力して、地元の小学校の体育祭には参加している。	○	地域密着型の主旨を理解して、広報誌の配布や施設の行事にも招待するなど、より一層の広範囲な交流を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価も全職員で取り組んだので、意識の高揚になり質の向上になりつつある。	○	外部評価の結果についても全職員で話し合い、今後、一層の職員の意識改革や評価を活かした具体的改善への取り組みに期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議で「良かった」と言われたことは全職員に報告して励みとなっている。問題点については会議の場で意見を出し合い改善につながるよう努力をしながら、サービスの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>行政の担当者や地域包括支援センターとは連携を密にして、常に質の向上に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>3か月ごとに「かりん便り」に近況報告をつけて家族に送付し、家族に安心と理解が得られている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族から意見が出れば直ちに聞き入れ、関係者が家族と話し合っている。また、第三者委員も設けているが今のところは問題は発生していない。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職の場合には「かりん便り」で報告している。また、家族がこられた時に紹介するようにしている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員を育成する研修としては、勉強会を実施しているが、職員育成体制の整備までには至っていない。</p>	○	<p>施設として職員をステップアップのためには近隣の施設との交流は実施しているが、外部の研修会にも極力参加して認知症の理解と取り組みなどにつなげるよう、今後の努力を期待したい。</p>
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>職員研修会としては、町役場の仲介により町内の推進会議に参加している。研修内容は職場研修会で報告し、意見交換などで共有し有意義である。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	その人らしく暮らす生き方を重視しその人の状態を見ながら、自室で食事をしていただいたり、相性の合いそうな方と共に食事をするようにして少しずつ慣れるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎年加齢と共に利用者の動きが緩慢になり、今は、調理など利用者の力を出すことが可能な利用者も減ってきているが、些細なことでも利用者から教わったり支えあう関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	訪問のたびに利用者、家族からの要望について相談したり、家族の協力を得ながら利用者本位に具体化するよう努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成は本人、家族、担当者、ケアマネジャーが相談して作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況が変わり介護計画の見直しが必要となった場合には、本人、家族、職員が話し合い、現状にあった介護が受けられるよう介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接のケアハウスと連携して納涼会、敬老会、ボランティアによる各種行事が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については家族と相談している。入院になってもかかりつけ医から家族に説明し、職員も家族の意向を聞きながらベストの方法になるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期になった場合には本人や、家族の意向を聞き担当医とも毎日報告し相談をしながら、職員間で共有し対応している。終末期には家族の付き添いの要望も受け入れ、面会は夜間も受け入れている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの漏洩については職員から誓約書を取っている。記録は気をつけて他人に見られることのないよう格納されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	加齢と共に自己のペースでの生活が困難となりつつあるが、鯉の餌やり、園芸、花壇の手入れや、野菜の収穫には興味をしめし楽しんでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昨年までは調理に興味をしめし、手伝っていたが加齢と共に今年ではできる人も少なくなり、今後の対応について検討を考えている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の声かけをしている。時間帯も希望の時間に入浴できるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	加齢と共に趣味やレクリエーションを楽しむ利用者が減少し、今後のあり方を検討している。しかし、グループホームⅡの4階ではカラオケや趣味に興味を示す利用者があり、明るい雰囲気を楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の希望者には一緒に散歩に出かけたり、買い物にも行っている。今後の改善を検討中である。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵掛けはしてなく、いつでも裏庭にも出れる。自分の部屋に他人が入ってくると言われる利用者には、話し合いの上で部屋を留守にするときには鍵をかけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	関係機関の消防署などとの協力を得て、避難方法を利用者ともども訓練しており、防火組織も整っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の指導のもと職員もある程度利用者の食事、水分などの把握に気配りしている。また、食事が摂取できない方には、食べたい物について家族と相談して対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り、季節感を味わっていただくよう配慮し、機会を見て窓の開放、換気に気をつけている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の馴染みの布団や、家具、持ち物、仏壇などを持ち込んでいる方もおり、使い慣れた物の持ち込みは自由で、部屋はそれぞれの特徴がある。また、仏壇を持ち込んでいる部屋で、利用者でお経をあげるなど自然な雰囲気である。		